

# アジア宣教フォーラム No.1

◆2010年6月号◆

## 「第1回アジア宣教フォーラムに参加して」

松本 章宏

アジア宣教フォーラムの様子については、すでに永井敏夫先生がキリスト教系新聞3紙に寄稿されましたので、ここでは私の個人的な視点から簡潔に書かせていただきます。

2005年にジャカルタ JCF の牧師になって以来、私はただひたすら、この教会が建て上げられることを願って奮闘して来ました。ヨーロッパキリスト者の集いが毎年開かれていることなどを聞くと、アジアでもそんなことができたらいいなあとと思う反面、文化や祝日が全く異なり、海で隔てられているアジアではやはり難しいのではというあきらめのような気持ちも持っていました。

そんな中、昨年11月14日～16日にシンガポール JCF から 3b-z（「賛美一ズ」と呼びます）という賛美チーム9名がジャカルタに来られ、奉仕をしてくださいました。せっかく来られたのに、15日（日）午前と午後の礼拝で賛美をしていただくだけでお帰りいただくのはもったいないと、翌日の月曜日にホームコンサートを企画しました。午前10時にコンサートが始まると同時に激しい雨が降り始め、プールの水面をたたき音が素晴らしい BGM となり、それまで蒸し暑かった室内に涼しくて爽やかな風が注ぎ込みました。そして、一つの曲が終わるときには、あたかもティンパニーが鳴るかのよう、巨大な雷が鳴り響きました。初めて来られた方々にも、大自然も一緒になって主を賛美しているというのが伝わったと思います。そして、感動のうちにコンサートが終わった瞬間、雨が上がり、来られた方々は晴れた中を問題なく帰ることができたのです。あまりのタイミングの良さに鳥肌が立つ思いがしました。

このコンサートをきっかけに真剣に求道を始めたご婦人が翌月信仰告白に至り、さらに翌月には洗礼の恵みにあずかりました。その変化を見た高校生の娘さんが、2ヶ月後、他の6名の教会学校の生徒とともに洗礼を受けたのです。そのような一連の出来事を見る中で、ルカ5章7節を思い出しました。「そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱい上げたところ、2そうとも沈みそうになった。」私には 3b-z の皆さんが、ジャカルタの網を一緒に引き上げるために、シンガポールから応援に駆けつけてくれたもう1そうの舟に見えました。そのときに、主はこのような協力関係をとても喜んで祝福して下さったということがよく分かりました。今年10月には、今度は私たち夫婦がシンガポール JCF のファミリーキャンプにお招きを受けています。ジャカルタからも何名かの兄弟姉妹が参加して、私たちがシンガポールにとってもう1そうの舟になることができれば幸いです。

アジアの日本語教会はこれまで孤軍奮闘して来ましたが、このようにネットワークを築き、チームワークで働くならば、さらに大きな収穫がもたらされるということ、3b-zの奉仕を通して現実に見せていただいた気がしました。その3ヶ月後、今年の2月9～12日に第1回アジア宣教フォーラムが香港で開かれましたので、私は大いなる期待をもって参加させていただきました。

韓国、中国、香港、台湾、フィリピン、シンガポール、日本、インドネシアから約30名が集まり、祈りと賛美と御言葉の中で交わりを深め、お互いの課題を共有し、これからの協力を約束することができました。もっと多くの地域から集まっていた良かった、もっと焦点を絞った話し合いができた良かった等の反省もありますが、まずはこのような会が催され、アジアの働き人が一堂に会することができたということは大きな一歩であったと思います。

来年は第2回をインドネシアで開催するよという意向を受けて帰って参りました。現段階で、旧正月を中心とした2011年2月1日(火)～4日(金)くらいの日程で、バリのヌサドゥアにあるInna Putri Baliホテルで行う方向で調整しています。もっと多くの国々から参加していただくためにはどうしたらいいのか、また、フォーラムだけでなく、アジアキリスト者の集いのようなリトリートも含めた形にするべきかということが今後の検討事項です。バリは、オーストラリアからの観光客も多い地域です。この機会にオセアニアからもお越しいただき、私たちのネットワークをさらに広げたいという願いを持っています。「それほど多かつたけれども、網は破れていなかった」(ヨハネ21章11節)。

この機関誌を読まれた方から、ご意見、アイデアをいただけますと大変幸いです。

# ANRC レポート

## ANRC

青木 勝

### 1. 経緯

- 1) ANRC(All Nations Returnees Conference <http://allnations.jp/an10/>)は、Urbana 06が開催されていた2006年12月下旬に、JCFN(Japanese Christian Fellowship Network <http://jcfn.org/dir/>)とDNJ(Diaspora network for Japanese <http://www.dnjonline.org/jp/>)が中核となり、プロジェクト計画が固められた。戦後60年(2005)を経て、救霊の恩恵に与かる海外在留邦人の増加が一層注目されるようになった。海外の日本人・日本語教会の歴史として、実際100年、50年、30年を超えるものが出現し、国内における同窓会も年代によって複数の宣教師・牧師を囲み、めぐみの輪が幾重にも広がるようになった。欧米を渡り歩く、世界の各地域を巡回する邦人クリスチャンや国際カッ

プルが増加し、複数地域を経験された帰国邦人クリスチャンの草の根交流や祈祷連携が進んでいる。内外邦人フォローアップを組織的に推進する JCFN(90 創設)の Equipper Conference、DNJ(05 創設)の DNJ Forum に参加されたグループ、RJC(<http://www.rjcnetwork.org/>)の協力などをベースに、祖国日本における全世界からの帰国者大会、内外邦人宣教大会をイメージして ANRC が企画され行われた。ローカルチャーと超教派ミニストリーによるディアスポラ宣教協力が進展し、マーケットプレイス宣教における内外縦横連携が推進される宣教大変革が実現されるに至った。

- 2) ANRC09(09.03.19-22 埼玉県熊谷市ホテルヘリテージ)は 27 ヶ国 600 名が参加し、日本プロテスタント 150 周年(沖縄伝道からは 163 周年)の記念イベントにさきがけて、日本発世界へ主の御業の拡大が広報され、内外に大きなインパクトとなった。そして、ANRC09 の期間も半ばに早くも ANRC10(10.03.19-22 同一会場)を継続開催するヴィジョンや企画が検討された。ANRC10 は同時期に同一会場にて行われ、10 ヶ国 700 名の参加、Ustream により全世界の 1000 名以上が同時生中継をシェアし、祈りの輪が世界大に拡張された画期的なものとなった。更に、ANRC10 期間半ばには ANRC12 の開催が合意され、それまでの数年を通して国内の地域グループや地域集会在が拡充され、国内の受け皿連携が整備されることになった。クリスチャン新聞 10.04.25 やリバイバル・ジャーナル 10.05.01 により、ディアスポラ宣教事例として ANRC ムーブメントが広報された。

## 2. ディアスポラ宣教協力によるマーケットプレイス宣教

- 1) ANRC09(09.03.19-22); テーマは Bridge to the World 世界の架け橋(コロサイ 1:6)で、フォーラムとリトリートを通し、異文化体験を重ねてきた帰国者が内外の多様な受け皿においてブリッジビルダーとして興され用いられるよう祈り合った。
- 2) ANRC10(10.03.19-22); テーマは One Body Many Parts 一つの体多くの部分( I コリント 12:12-13)で、帰国者や国際人 global-minded-Japanese(国際カップル、国際ファミリーや MixRoots を含む)がブリッジビルダーとして興され、内外の多様な教会や超教派ミニストリーの地域連携においてブリッジビルダーとして益々用いられるように祈り合った。実際、地域の受け皿が派生され、自主的に整備されつつある。
- 3) ANRC は、ANRC09/10 から ANRC12 へ向かい宣教変革のムーブメント(All Nations Returnees Connection)として整備されて行くため、エペソ 2:14-22 を基調聖句としたコンセプトを確認した。即ち、「ディアスポラ・クリスチャンが、異文化による壁を越え、互いに神の家族として繋がり、教会を建て上げ、キリストの平和を世界に広げる」ことを目指すことになった。そして ANRC12 までの 2 年半に、国内の各地域受け皿が整備され、国内連携や内外連携が拡大され、ANRC12 に進展して行くことになった。
- 4) ANRC12(12.11.22-25); 帰国者フォローアップから国際人、そして在留外国人・留学生に対するブリッジビルダーの興起と内外連携の推進が更に求められている。2020 年までに在日留学生を倍増させる日本政府施策となる Global 30 対応を通し、アジア人ディアスポラによる東アジアの祈祷連携が尚一層拡大される予定。

### 3. Global Mission Stream

- 1) 戦後 60 周年(2005)や昨年(2009)の日本プロテスタント 150 周年(沖縄伝道から 163 年、横浜開港から 150 年)を経て、祝福と平和を受け継ぐ使命を担い、東アジアの共生と平和に貢献するアジア人ディアスポラの興起とブリッジビルダーの協力・連携が拡大中。Global Mission Stream として、ANRC09, JCE5(第 5 回日本伝道会議), Urbana09, Mission Forum in Asia(アジア宣教フォーラム), ANRC10, Tokyo 2010, Central Conference, JEA/Mission Forum, Cape Town2010(The 3<sup>rd</sup> Lausanne Congress on World Evangelization)と連続する各重要企画が、Global Prayer Network によりつながり、相互に進展し、内外の地域連携が拡大されつつある。
- 2) Urbana 09 や以前の大会で提示され続けてきたクリスチャン人口の統計指標からくる Unreached/Unevangelized people No.2 への対応が、技術大変革と宣教大変革により明示されつつある。日韓中のディアスポラによる Global 30 対応プロジェクトが進められ、東アジア全体に波及する宣教協力が一層求められている。また、Urbana 12 におけるプログラム改定も要望されている。
- 3) JEA/宣教セミナー; JCE6(2016 東海地区)に向けた JEA 宣教セミナー(10.09.06-07 於在日大韓基督教会名古屋教会)があり、JCE5(09.09.21-24 札幌)で提示された JCE6 への中長期ビジョンのロードマップと進捗状況が報告される予定。

アジア宣教フォーラム; アンテオケ宣教会主催シンガポール JCF 協力による世界宣教セミナー 2006 をホップ、アンテオケ宣教会主催香港 JCF 協力による世界宣教セミナー 2008 をステップに、アジア宣教フォーラムは 2010 にジャンプして開催された。祝福と平和を受け継ぐ使命を覚え、東アジアの平和と共生に貢献するアジア人ディアスポラの興起とブリッジビルダーとしての協力・連携が益々重要である。アジアの受け皿の多重連携により、特に米中韓日の内外縦横連携の中で、米国留学生と日本留学生の異文化交流が進み、Global 30 対応を通じたアジアの平和と共生を担う次世代の信仰継承が果たされるよう祈りの手を挙げ続けたい。ネットワークやフットワークが活かされ、現場の巡回交流が進み、技術革新のインフラ基盤に支えられ、ディアスポラ宣教変革に取り組むチームワークが次世代宣教のキーとなるよう祈り願う。

## ANRC10 に参加して

東京めぐみ教会 石原 和恵

私は逆のぼること 12 年前、シンガポールで 4 年半就労し、帰国と同時に洗礼を受け、3 年間東京で教会生活を送りましたが、再度出国することになり、昨年 2008 年夏までの 4 年半の間、中国の上海に駐在員として仕事をしました。この ANRC には今年が初めての参加になりましたが、会場に入るやいなや、自分が海外に居たころに戻ったような開放感を感じました。そして、懐かしい仲間思いがけず再会できた喜びから、私はもう天国に来てしまったのだろうか、という一瞬の錯覚すら覚えました。

帰国者集会は欧米からの帰国者のフォローが中心なのではないかというイメージを私は勝手に抱いて

いました。しかし、実際にはアジアに関係するセミナーがいくつか開かれており、松本章宏師による「アジアにおける邦人宣教の現状と可能性」をはじめ、中国語で礼拝が行われている東京国際基督教会 蔦田康毅師による中国語賛美のセミナー、東京めぐみ教会安海和宣師による宣教の



視点から見る「在日外国人教会との協力／連携」、料理人でも知られる荘明義氏の証や、中国駐在経験のある下村神学生の証などがあり、それらセミナーの参加者も多く与えられていました。今、クリスチャンの中でもアジアが注目されているということを改めて実感しました。

もうひとつ、今までと違う新しい流れとして、特に ANRC 前日に行われたフォーラムにて、日本国内の外国人・留学生伝道についての必要性や課題が話し合われたことが印象的でした。アジア、特に中国からの在留外国人が増加しつつある中、今後の日本社会を維持していくためにも、私たちのようにアジア文化についての体験と理解がある一人一人が橋渡し役として今後とても大切な存在になっていくだろうと感じましたし、その意識を持って日々見聞きしていることを受け止めるべきであると思われました。次回の ANRC の全体集会は 2012 年ということですが、アジアからの邦人帰国者のネットワークを、更に大きくしていくために、一人でも多くの方々にご参加いただき、繋がり励ましあっていければと思います。この ANRC が開かれた後には多くの地域集會が立ちあがっているようです。帰国者コミュニティという新しい革袋がこれからも生まれていくことでしょう。

話は横に逸れますが、私が働く IT 業界では、クラウドコンピューティングという言葉を目にするようになりました。このクラウドは空に浮かぶ“雲”の意味です。このクラウドとはハードウェアやソフトウェアを自分で構築するのではなく、その雲に接続さえすれば、あらかじめ準備されている必要なリソース（資源）が必要なだけ入手可能なものという意味で使われます。そしてこのクラウドコンピューティングを構築するためには、ネットワークが欠かせません。初めての教会生活を東京で送り、上海でも信仰を共にする仲間にも恵まれていましたが、生まれ故郷でありながら、小学校までしか生活していなかった名古屋に戻り、知人の少なさに大海に浮かぶ小舟のようになってしまった寂しさを覚えました。そのような時、この ANRC に参加し、自分がこのクリスチャンのクラウドに接続することができ、地元での仲間や興味を持っていた情報がいっきに流れ込み、日本での生活が急に豊かになりました。このクリスチャンのクラウドを考えていた時、ヨハネによる福音書 15 : 5 **「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」**が頭をよぎりました。ケーブルで接続した PC としての自分、神様からの恵みにつながれたぶどうの枝である自分の姿が重くなりました。

今回の ANRC 素晴らしいところは、ホームページに、当日に行われた約 40 近くのセミナーのオーディオファイルなどが登録されており、開催後も場所を超えてこの ANRC の情報を聞くことができます。私は通勤途中にこのセミナーを一つ一つ聞いていますが、聞く度に視野が広がり、心燃やされます。是非皆様訪ねてみてください。 <http://allnations.jp/an10/> というわけで、この ANRC に携わってくださった皆様に感謝が絶えません。心からお礼申し上げつつ、次回皆様とこの ANRC でお会いできることを楽しみにしています。

# 教会レポート

ジャカルタ JCF にとって今年の大きな祝福は、3月14日（日）に8歳から16歳までの7名の教会学校の生徒が洗礼を受けたことです。実は、この出来事と昨年5月3日（日）にした礼拝説教とは無関係ではありません。その日、私は、マルコ9章14～29節から「子どもを取り戻すための戦い」という題で語りました。大切な子どもたちをサタンの手から神様のもとに取り戻さなければならないという内容で、皆でそのために祈りました。その10ヶ月後に、主はこのように形でご自身の勝利を表してくださったのです。

洗礼式に先立って7週間、毎週木曜日の夕方は男子4名と、金曜日の夕方は女子3名と洗礼準備クラスをしましたが、これがまた素晴らしい時間でした。子どもたちも自分の罪について悩み、真剣に救いを求めているということがよく分かりました。その期間、一人一人の子どもたちがイエス様との新しい関係に入れられました。しかし、洗礼式が近づくに連れて様々な攻撃もありました。なかなか風邪が治らない子もいました。私は直前の月曜日にぎっくり腰になってしまいましたが、主は速やかに癒してくださいました。土曜日の午後、もう大丈夫だろうと思っていたところに、一人のお母さんからSMSが来ました。「今大変な事故に遭いましたが、守られました。」翌日、写真を見たときに、背筋が寒くなりました。洗礼を受ける子どもとご両親とおじいさん4人で高速道路を走っているとき、突然、車が制御不能になり、約90キロのスピードでガードレールに激突したのです。エアバッグが飛び出し、車は大破しましたが、眠っていた子どもも含めて全員無傷。車も保険の関係で、経済的損失も皆無でした。洗礼式当日、目の前に元気に並んだ7名の子どもたちを見たときに、主の特別な守りに感謝しました。



7名のうち6名は国際結婚の子どもたちです。言葉が堪能で、熱帯性気候にも慣れ、2つの文化に適応しています。宣教師になるための訓練の一部が終わっているようなものです。彼らが正式な教会員となり、神妙な面持ちで聖餐式にあずかっている姿を見たときに、主がこの教会の現在だけでなく将来をも祝福してくださっていることを覚えて感謝に溢れました。

4月から新年度になり、私たちは詩篇1篇2～3節の年度聖句と「水路のそばに植わった木のよう

に」という標語のもとに新しい歩みを始めました。今年度は収穫の年になるという期待が私たちの内側に与えられていましたが、4月以降午後のメインの礼拝に来られる方々が急に増えました。私が赴任して以来5年間、今年の3月まで大人だけで50名を越えるということは一度もありませんでしたが、最近では珍しくなくなりました。そんな中、洗礼・入会志願者が次々と起こされ、週に何度も準備クラスを開くようになりました。6月には、2名が入会し、4名が洗礼を受ける予定です。

日曜日の午前中3ヶ所で行っている出張礼拝のうちの1つ、日本人が多く住むアパートのマルチパーパスルームが突然使えなくなりました。これまで3年間、毎月この場所で福音の種を蒔くこ

とができたことを感謝し、先日最後のファミリー礼拝をおこないました。主が一つのドアを閉じるときには、新しいドアを開けてくださると信じていましたが、早速別のアパートのファンクションルームが借りられることになりました。神様の新たなご計画があることを信じ、7月にキックオフ集会を企画しています。

6月には台北の国際日語教会のピアニスト陳加寿子姉がジャカルタに来られ、2回の礼拝とホームコンサートで賛美の奉仕をしてくださいます。また、8月にはソウルオンヌリ教会日本語礼拝部青年会のメンバーがアウトリーチということで約1週間ジャカルタで伝道の協力をしてくださいます。あちこちからお越しくださる救援部隊の舟を通して、主がさらに素晴らしい御業をなしてくださることを期待しています。

## 「変化する中国」

新納 真司

私は上海 JCF の牧師新納真司（にいのみじ）です。上海 JCF は 2007 年 2 月に上海邦人のために日本語教会として開拓し、今年で 4 年目を迎えます。当初は家の中での礼拝でしたが、現在は上海オンヌリ教会の礼拝堂を借りて午後に礼拝を持っています。

当初上海に来たときは、共産国でどのくらい宣教できるのか全くさじ加減がわからないという戸惑いがありました。口コミ以外では日本語のフリーペーパーのサークルメンバー募集に「聖書に関心のある人」と掲載すると電話連絡をいただけるようになりました。当初は聖書という言葉を書き載せるのはまずいのではないか、礼拝という言葉はまずいのではないか、公安が調査電話を入れてくるから気をつけるなどいろいろとうわさがあり注意する部分と信仰により踏み出す部分とその加減に気を遣いました。

すでに現地で長く働いている宣教師にアドバイスをもらいに行くと、次のことに注意するならば宣教は十分可能だということでした。中国人に伝道してはいけない。中国政府を批判してはいけない。脱北者をかくまってはいけない。あなたが日本人伝道するのはどれにも当てはまらないので全く問題ないと言われ元気づけられました。



その後わかってきたことは、中国の宗教政策が 2004 年の SARS 以来キリスト教に対して年々寛容になってきていることです。それは SARS のときクリスチャンドクターが献身的に働かれ社会に貢献したことから、キリスト教は社会・国家に反逆するものではないと認識されたからだと言ったことがあります。また近年は取り締まり対象であった地下教会と政府も対話が進んできていると聞いています。その一方で、上海で中国人のクリスマス集会で会場使用が認められなかった。地下教会を解散させられた、万博のため活動を自粛するよう通達があったなどもあります。これは中国の二つの顔とも言えるでしょう。いずれにしても、中国人伝道と邦人伝道は同じものではなく、これらは分けて考えるべきものだという事です。たとい取り調べがあったとしても、20 年前の中国とは全く違ったものになってきているということです。

上海には 10 万人近く日本人がいると言われていています。1 都市に日本人学校が 2 校あるのは世界でも上海だけです。これまで中国は、世界の工場と言われていましたが最近は市場としての価値が注目されています。先日ユニクロも上海に旗艦店を設けました。日本からの進出企業もメー

カーから消費を中心とした企業に変わってきています。上海では韓国教会はすでに 26 以上はあります。しかし、日本語教会は確認できるもので 2 つと非常に少ないのです。これは日本国内で中国宣教が難しいという概念から来ていると思われます。日本のキリスト教メディアが迫害中心の中国情報を流し続けているからです。しかし実際は中国史上なかったほど宣教にオープンになってきているといえます。

私が見るには中国人宣教は勢いに乗り、どんどん進んでいるが、日本人宣教は遅々としているということです。今後、中国においての日本語教会へ視線を送っていただき、中国への認識を新たにしていただき、邦人教会への宣教師が増やされていくことを期待します。

## Singapore Japanese Christian Fellowship 近況

議長 渡部 尚

シンガポールの地において日本語教会が建てられ正式に政府登録され今年で 36 年目を迎えます。4月17日に年次総会があり、2009年度の活動方針、会計が報告され、2010年度の活動計画及び予算が承認され、新役員が無事選出されました。SJCFのミッションステートメントは今年も変わらず

「SJCFは、主イエス・キリストを主と受け入れた私達が、このシンガポールの地で、キリストにより、一つの体とされた信仰者の群れである教会です。」エペソ4章16節

「主は、この教会に福音の伝道、キリストの弟子としての成長、世界宣教をゆだねてくださいました。」マタイ28章19節、20節です。

2010年度年間聖句は、「しかし、聖霊があなた方の上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てまで、わたしの証人となります。」使徒の働き1章8節です。

多くのメンバーが帰国されメンバーの人数も少なくなっている現状ですが、このミッションステートメントと年間聖句を携え2010年も歩んでいきたいと願っております。



特に2010年度我々の願いは中澤啓介先生の後任の専任牧師先生を与えていただきたいという事です。中澤先生の長年の多大なる奉仕でSJCFの牧会が守られていることを本当に感謝いたします。速やかに後任の先生が与えられますようお祈りください。

今年もいろいろな行事を企画しております。6月には第1回アジア宣教フォーラムでお交わりいただきました陳加寿子神学生がシンガポールで伝道コンサートを開いてくれます。順調に準備を進めております。多くの方にすばらしい演奏を聞いてもらうとともに神様の福音が伝えられますようお祈りしております。7月には宇井英樹先生ご夫妻の伝道コンサートを企画しております。8月末にはSJCFの最大行事サマースクールが行われます。昨年は80名の小学生が参加してくれました。今年も神様に祝福された行事となりますようお祈りください。いろいろな行事が企画されておりますがすべて神様の栄光を現すために用いられますよう願っております。

第2回アジア宣教フォーラムの準備が着実に進むよう又多くの方が集えるようお祈りしております。

私は 2006 年 6 月にアンテオケ宣教会のシンガポール世界宣教大会に参加しました。その時私はまだ関西聖書学院の 3 年生でした。大会の中で神様にお祈りしている時、海外にいる日本人に伝道しなければならないという思いを与えられました。日本に戻ってお祈りしている中で、韓国にいる邦人に宣教し、リーダーシップとして立て上げ日本に送り返し、日本の教会のリーダーシップとして立て上げるというビジョンが与えられました。

韓国の各教会の長老を集め、在韓邦人宣教団体であるソウルハーベストを設立し、また、日本ビジョン共同体を創立しました。その中の日本ビジョン教会は、韓国にいる邦人学生に宣教する教会です。ソウルの延世大学に語学堂がありますが、そこに多くの日本人が韓国語を学びに来ているので、その学生たちに伝道することを導かれました。伝道するには、その中に入って伝道しなくてはならないので、同じ語学堂で勉強しながら伝道する宣教師が必要です。

私が 2007 年 6 月 10 日アンテオケ宣教会の宣教師として派遣式をしていただいた後、初めての奉仕教会が群馬県のニューワインスキンキリスト教会でした。ちょうど奉仕に行ったとき、牧師の娘である金井まり江姉妹が献身のためお祈りをしていたところでした。私がこのビジョンをお話したところ、彼女も祈り共に重荷を負ってくださることになり、ネヘミヤ宣教師として働いてくださることになりました。

2008 年 7 月から延世大学で学びながら伝道がはじまりました。金井まり江宣教師も延世大学の語学堂に入学し韓国語を勉強しながら日本人に伝道しました。一年間で感謝なこととその語学堂から 3 名の受洗者が与えられました。日本ビジョン共同体は来年から日本に献身する韓国人宣教師を訓練する日本宣教アカデミーを開設する予定です。お祈りをお願いします。

今回アジア宣教フォーラムに参加して、同じビジョンを持っていらっしゃる先生方がアジアに沢山いらっしゃることを知ることができましたことは大変感謝なことでした。またそれぞれの先生方が、素晴らしい働きをされていることを知り、大変励まされました。



今年 4 月末には父の学校の奉仕でマレーシアのクアラランプールに行きましたが、そこでも KLJCF の加藤先生とお会いし共に礼拝させていただきました。加藤先生も素晴らしいお働きをされておりました。

やがてアジアでイエス様と出会い、成長したクリスチャンたちが日本の教会に戻って、日本の教会を支え導く大きな力になると確信しました。

神様の御手がアジアの上にあることを感じて感謝で溢れました。これからも、アジアにある JCF の先生方と協力してアジアにいる邦人宣教のために主に用いていただけることを願っております。来年のアジア宣教フォーラムも楽しみに参加させていただきたいと願っております。

2006年に台湾行が示された時、バンコクの日本語キリスト教会(BJCC)の方から、ヨーロッパではキリスト者の集いなるものがあるけれど、アジア各地にある日本語教会は横のつながりが無い、何かできないだろうか……という声をいただきました。

それではぜひ一と口にしてはいたものの、派遣前にジャカルタの松本章宏牧師にお会いできたり、今の教会の前々任者が香港 JCF で牧会されていたにも関わらず、特別な交流もなく時間が過ぎゆくばかりでした。

しかし 2009 年のアンテオケ宣教会主催の邦人伝道についての会で、ご一緒した方々も同じような思いがあったことを知らされ、今年のアジア宣教フォーラムが生まれることとなりました。

うれしい一方、台北の私たちの教会は他の日本語教会とは状況が違うので、共有しにくいかもしれないという思いもずっとありました。

台北の国際日本語教会は今年創立 37 年目を迎えています、この日本語教会の一番の特徴は、台湾人の方々が創立され、今なお教会員の多くが台湾人ということです。台湾の現在 70 代後半は自称他称「日本語族」といい、台湾語や原住民の母語以外に、日本語も母語とされる方々が大勢おられます。その方々が日本語で聖書を読みたい、日本語の讃美歌を歌いたいという思いで 1973 年に日本語「礼拝」が始まりました。当初は日本から通われる日本人牧師や宣教師、また日本語世代の台湾人牧師など、毎回各所からの牧師、伝道会等のご協力を得て礼拝を続けていました。しかし時局的に単独でいるのは危険だからと、台湾基督長老教会のご好意で 12 年後の 1985 年に「台湾基督長老教会 国際日本語教会」として教会が誕生しました。以来、毎日曜 2 回の礼拝一午前は主に日本人学校がある地区で、午後は別の教会を借りて台湾の日本語族世代の方々が多く集う形で行っています。

この数年、経済の影響で多くの日系企業が台湾を撤退したり、中国へ移っていき、今教会には駐在家庭がいません。単身赴任、若い単身者の現地企業採用、国際結婚、中国語留学、日本語学習者(台湾人)、昨年日台間で認可されたワーキングホリデー等々で来台されている比較的若い世代が少しずつ集まってきている状況です。80 代日本語族のお子さんたちは台湾語や北京語教会に通われたり、海外在住がほとんどですから、核となる 50-60 代がいない教会です。

「邦人」対象でない日本語教会を知って頂きたいこともあって、このフォーラムに参加しました。ところが、考えたくなくても、あと 10 数年で日本語族の方々は天上を賑わして下さるようになり、私たちの教会もこれからは次世代の国際ファミリーが教会を支えていくことを意識しています。その中で、この国際ファミリー、特にバイリンガル、トリリンガルの子もたちが各日本語教会をどのように担っていくのかが大きな要になること、また老後を温かいアジアで暮らしたいという引退者(高齢者の海外移住)への宣教なども共通の課題であることが、新たに認識されました。この会では、当初使われていた「国際結婚」という言葉から「国際ファミリー」という言葉へと新たに意識づけられました。これも次世代を見据えた宣教への大きい動きの一つだと思います。

帰国者のフォローも大きな課題ですが、日本で帰国者の会があることを初めて知りました。今後紹介していきたいと思います。

また、台湾では日本語学習者が非常に多く、日本語学習者向けの聖書を読む会や聖書研究会で

は、他教会から広い世代の参加者で賑わっています。「日本で宣教活動したい、教会をつくりたい」「日本で福音が広まるように祈っています」と言われる方も少なくない状況を、日本人の皆様にご覧いただきたいです。

このフォーラムを通して、各地の課題が遠いことでなく身近に迫ってきたこと、また教職者や信徒の方と顔が見えたことで、より支え合い祈り合うことができること、特に移動の激しい日本語教会は頻りに他の海外や日本へ送り出していますが、そのことが楽しみに思えるようになりました。フォーラム前日に香港の「ノアの箱船テーマパーク」に寄りました。聖書の実物大に作られた箱船の扉から模型の多くの動物たちが出てきているシーンが再現されています。扉の中側から撮った絵はがきの写真を見て、はっとさせられました。暗い閉ざされた箱船から、太陽輝く渾身の地上へ勇み出る動物たち。何と素晴らしい希望に満ちた瞬間でしょう。神はノアに「さあ、皆一緒に箱船から出なさい」(創 8:18)と言われました。ここに残らず、皆この地上に降り立ちなさい、と。用をなした箱船も満足だったことでしょう。私たち日本語教会もこの箱船のように、命あるものを導き、囲って守らなければならない時、そして潔く送り出す時と、その時々、御心に応じて用いられたいと、フォーラムを通してさらに強く思われました。

また私たちの教会奏楽者であり、献身されている陳加寿子神学生が来月からアジア各地の教会で賛美のご奉仕をされるきっかけともなりました。主に感謝です。

さらに、フォーラム以外でも個人的に御来台くださったり、ツアーが企画されたり、電子メールなどで教会内外の方々を紹介し合うことで、一気に輪が広がっています。

そうした動きを充実させるために機関誌が発行されました。長谷川先生はじめ、ご奉仕者が与えられ感謝です。益々、各地の様々な賜物や情報が海を越えて用いられ、喜びも痛みも分かち合っていけることと思います。

来年の開催はバリ。日本語教会は無牧だそうですが、ジャカルタの教会との協力で守られている様子などを、近隣！のアジア各地の日本語使用キリスト者で共有し、主イエスさまに連なる豊かなファミリー修養会になればと楽しみにしています。

## 東京 JCF 報告

長谷川 与志充

東京 JCF は、私が 2001 年 7 月以来牧会して来た東京ミレニアムチャーチの働きを引き継ぐ形で、昨年 2009 年 10 月に発足しました。海外 JCF 等からの帰国者の受け皿となり、海外 JCF 等を支援する教会となることを目指しながら、これまで祈りつつ一步一步前進して来ました。

2009 年 11 月 15 日に行われた発足記念礼拝には、永井敏夫先生（元日本ウィクリフ総主事）をお迎えし、東京 JCF に対する主からのビジョンが使徒の働き 16 章を通して語られました。

その後不思議なことに海外で奉仕をしておられる先生方が次々と教会に送られて来て、ビジョンが現実のものとして導かれつつあります。主がお送り下さった先生方は下記の通りです。

09 年 12 月 2 日（水） ダニエル朴先生（ソウル JCF）  
6 日（日） 田井真聡先生（SIL 宣教師、インドネシア）  
8 日（金） //

- 10年 1月22日(金) 安藤廣之先生(ミュンヘン日本語キリスト教会牧師)  
 3月17日(水) 松本章宏先生(ジャカルタ JCF 牧師)  
 21日(日) //
- 4月16日(金) 島影正義先生(サン・ミゲール・パウリスタキリスト福音教会牧師、  
 ブラジル)



発足記念礼拝でご奉仕下さった永井敏夫先生と、2010年3月の祈祷会と礼拝でご奉仕下さった松本章宏先生には、2010年4月から「東京 JCF 顧問」としてご指導とお祈りをお願いしております。本当に心強い限りです。

今後は、海外でご奉仕しておられる先生方を引き続き教会でお招きしながら、私が主宰している三浦綾子読書会の働き

を通して海外 JCF 等を訪問し、お互いの関係を深め合っていけたらと願っております。

6～8月に予定されている三浦綾子読書会での海外訪問は下記の通りです。

- 6月15日(火)～17日(木) ソウル JCF  
 7月 4日(日)～ 8日(木) マキキ聖城キリスト教会、ハワイ  
 7月 9日(金)～13日(火) オークランド JCC、Baptist Tabernacle、  
 Mairangi Bay Community Church、ニュージーランド  
 8月18日(水)～23日(月) パース日本語キリスト教会、オーストラリア

特に、7月と8月のニュージーランドとオーストラリア訪問を通して、オセアニアとアジアとの関係が深められ、第2回アジア宣教フォーラムにオセアニアからも参加者が導かれるよう期待しております。

今後の東京 JCF の働きのため引き続き覚えてお祈りいただけたら幸いです。

## 香港インマヌエル教会

鹿島 義喜

2009年6月3日、数人のクリスチャンが集まり、祈り会をもちました。黙示録3章8節の御言葉が与えられていました。「わたしは、あなたの行いを知っている。**見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。**なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」以下の目的のために、この時、教会設立を進めることにしました。

- 1 香港の九龍半島に日本語での礼拝の場所を確保して、毎週礼拝を日本語で始める。
- 2 香港に宣教のセンターを置いて、近隣への宣教をスタートする。

神様は、香港のクリスチャン団体を通じて、九龍半島の繁華街の駅（尖沙咀 Tsimshatsui）から、3分のところに礼拝する場所を備えていただきました。毎週日曜日の10時から13時まで、30名ぐらいが入れる場所を貸していただけることになりました。6月7日から第1回目の礼拝が捧げられ、今では、50回目を越えました。礼拝は、10名をきることはなく、平均14.5名です。来られている方々の多くは、国際結婚をされているカップルで、日本語での礼拝を求めている出席です。教会そのものは、超教派的な牧会がなされていますが、将来の近隣への宣教のこともあり、日本のインマヌエル総合伝道団の宣教地のひとつに加えていただき、組織化が進められました。香港のクリスチャン弁護士を通じて、非営利団体としての認可の申請をし、また、将来のビザのこともあるので、法人格も得られるように導かれました。多くの方々の祈りの中、半年ほど掛かりましたが、2010年2月3日付けで、非営利団体としての認可が香港政庁から下り、同時に法人格も取得しました。

2010年5月16日、礼拝後、設立総会が14名の第1種会員で持たれ、教会規定や2010年度の予算案・計画も承認されました。いよいよこれから、香港近隣への働きが本格的に始められていきます。

今までも、香港で学んでおられる神学生を主がお送りくださり、現地の教会とも良き協力関係が気づかれていることを感謝しています。そのような中、去年のクリスマスには、4名の方の洗礼式を持つことが許されたことは、この群れが、起こされた意義を深く感じさせられました。4人とも国際結婚のカップルです。教会の案内は一切していませんが、礼拝と、水曜日の祈禱会、そして金曜日のFNF（Friday Night Fellowship）を中心に集会がもたれてきています。

生まればかりの小さな教会ではありましたが、2月には、第1回アジア宣教フォーラムのお世話をさせていただけたことは本当に大きな恵みでした。4月からは、フィリピンで3年間の学びを終えられ、香港ウリクリフから送り出されようとしている日本人の宣教師候補カップルを主がお送りくださり、将来宣教師を送り出せるようにと主にある成長を強く祈り願っています。

今年の年間聖句は、ヨハネの福音書第4章35節「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています」です。まだスタートしたばかりの群れですが、覚えてお祈りいただけると幸いです。

.....

#### ◆編集後記◆

この機関誌の編集担当である井上英理子姉妹はシンガポールJCFで救われ、バンコクJCC、香港JCF、ジャカルタJCFで養われ、昨年東京JCFのメンバーとして活躍しておられます。この機関誌こそ彼女の経験と才能がまさに花開いた結晶と言えるでしょう。（長谷川与志充）

アジア宣教フォーラム機関誌 No.1 発行：アジア宣教フォーラム実行委員会  
編集委員：長谷川与志充、井上英理子  
連絡先：[toyoshi@io.ocn.ne.jp](mailto:toyoshi@io.ocn.ne.jp)（長谷川）